

森川天台座主猊下がご遷化



発行所
比叡山時報社
〒520-0116 大津市坂本町4220
郵便番号 520-0116
電話 077-378-0001
振替 00970-2-9732
宗教法人延暦寺事務所
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

叡山講福聚教会 会報

年度会費 (3000円) 中
に会報 (比叡山時報)
購読料を含む。

令和3年比叡山から
発信する言葉
自他
同心
自他心を同じくす



ご購読は
こちらから



「草木も成仏できるので、まして人は必ず仏さまになれる」

「自然との共生こそが解決方法」

分かりやすい言葉で伝教大師のお言葉説かれる

第二百五十七世天台座主大僧正森川宏映猊下が、十一月二十二日午前七時三十分ご遷化された。大正十四年生まれ、満九十六歳。大正時代に誕生された森川猊下は、激動の昭和を含め四つの時代を比叡山と共に駆け抜けた。

御法名は「清眞誠道院天台座主探題大僧正宏映大和尚」。生前の人となりを思い出されてならない。

第二百五十七世天台座主森川宏映猊下におランシスコ聖下へお渡しになったご染筆のおかれましては、在位にあられた六年間、数々言葉が「共生」でありました。の法要に際して一つひとつを目標にされ、心またお医者さまとの終末医療についての対を込めてお勤め下さいました。お話される時談の中では、「草木も成仏できるので、だから難しい言葉ではなく、わかりやすいやさし、まして人は必ず仏さまになれるのです。だから言葉で伝教大師のお言葉を説かれ、現代社ら治療はお医者さまにお任せすればいい。その会の問題にも的確に道筋をお示し下さいまし、してお医者さまが努力をつくして、『これはた。そしてそのお声は力強く心に届くもので、もうあかん』と言われたならば、その時は心安らかに浄土の世界に旅立ちましょう」と結んでおられます。

猊下は「草木国土悉皆成仏」の教えをひかれて、自然との共生こそが今まで自然を征服して文明を進化させてきた人類の様々な問題を解決できる方法であるとおっしゃっていました。心を留めおき下さるようお願い申し上げます。

平成28年9月に開催された「世界宗教者平和の祈りの集い」に参加され、ローマ教皇フ執行の挨拶より）

第二百五十七世天台座主森川宏映大僧正に於かれましては、御尊躰にわかに不調となられ、令和三年十一月二十二日午前七時三十分ご遷化せられました。

謹んで御報告申し上げます。

尚、本葬は左記の通り天台宗葬を以って執行いたします。

記

第二百五十七世天台座主 森川宏映 儀

本葬 日時 令和四年一月十八日（火曜日）午後一時より

場所 天台宗務庁（大津市坂本四一六―二）

葬儀委員長 天台宗宗務総長 阿部 昌宏
葬儀奉行 延暦寺執行 水尾 寂芳
遺弟代表 眞藏院 櫻井 行尚

※誠に勝手ながら、供花・御香資等の儀は御辞退申し上げます。

第二百五十七世森川宏映

天台座主猊下追悼特集



いつも山務にく新住職に「大師さまの弟子としてここに配属されても全力を尽くしたい」とお声をかけられた。（写真は比叡山高等学校校長時）

比叡山を歩き尽くし、知り尽くし、愛し尽くす
教宗派を越えた相互理解を説き世界平和を希求

自ら歩まれ数々の歴史的法要を実現

森川宏映天台座主猊下にあられたのは、大正14年愛知県春日井市でお生まれになられ、昭和11年に得度受戒された。頭腦明晰で能く勉学に勤しまれ、京都大学農学部において造林学を学ばれた。昭和25年、延暦寺山眞藏院住職を拝命。以降延暦寺管林課（現管理課）において長きにわたる比叡山の山林の管理と保護に尽力なされ、叡山の森林と共に歩まれるなかで『法華経』に説かれる人間だけではなく、動物や植物など万物が仏性を持つ「草木国土悉皆成仏」の思想を体得なされた。

また、「国主」となる人材育成のため、延暦寺学園比叡山中・高等学校の両学校校長を務められ、地域住民からは「森川先生」との敬称で親しまれた。

森川座主猊下は「隅を照らす」精神を学生や一般の方々にもわかりやすくポストにポスト与えられた場所での力を尽くす」という言葉で説かれた。

昭和25年、延暦寺山眞藏院住職を拝命。以降延暦寺管林課（現管理課）において長きにわたる比叡山の山林の管理と保護に尽力なされ、叡山の森林と共に歩まれるなかで『法華経』に説かれる人間だけではなく、動物や植物など万物が仏性を持つ「草木国土悉皆成仏」の思想を体得なされた。

また、「国主」となる人材育成のため、延暦寺学園比叡山中・高等学校の両学校校長を務められ、地域住民からは「森川先生」との敬称で親しまれた。



令和元年11月、広島平和記念公園にてローマ教皇とアッシジ以来の再開を喜ばれる座主猊下

宗祖伝教大師のご精神を体現



平成28年1月に開催された「世界宗教者平和の祈りの集い」に参列。自らの思いを手ずから「共生」としたため軸装染筆し、ローマ教皇に贈られた。



平成19年比叡山行幸啓をご案内される森川大僧正



北野天満宮にて「祭神菅原道真公と伝教大師に」ローナ禍の終息を祈られる



興福寺中金堂落慶に天台座主として600年振りに法要厳修された



平成31年12月、高野山真言宗西光義智長老猊下とご歓談

を日本の宗教者を代表してお迎えになられ、固い握手を交わされ、共に世界平和を祈られた。令和のコロナ禍にあつては感染症に苦しみ怯える人々のため、全国の天満宮・天神社の総本山北野天満宮と共に令和2年9月500年振りに御霊を再興された。神仏習合の形で共に新型コロナウイルス感染症の終息を祈られたことは記憶に新しい。

森川座主猊下の生涯は、宗祖伝教大師のご精神の体現に他ならない。戦後の比叡山にあって回峰行三百日満行の厳しい修行を経られ、その後の長きにわたる活躍は、密葬時の数徳文において、堀澤祖門曰く講大僧正より「比叡山内に森川座主猊下の足跡の無きところを在らず」と讃えられた。

比叡山を歩き尽くし、知り尽くし、愛し尽くし、自ら歩まれ数々の歴史的法要を実現



本願寺（右）、知恩院での恵心僧都一千年御遠忌法要に出座され、御影に香を手向け感謝の誠を捧げられた



昭和26年山王礼拝講出仕時の一枚（本紙平成17年2月号「瞻仰尊顏」より撮影福田徳彦）



浄財を喜捨する子供を慰まれる（令和元年12月、一斉托鉢で）



延暦寺大霊園起工式での森川管理部長



修学旅行に付き添われた思い出の写真（比叡山中学校）

森川宏映天台座主猊下通夜・密葬の儀
滋賀院門跡に1300人が弔問
在りし日の座主猊下を偲ぶ



密葬ではすべての人々が森川猊下のご遺徳を偲んだ



森川猊下との最後のお別れの時

00人が参列し、森川座主猊下との最後の別れを惜しんだ。

密葬の前夜には午後7時より通夜の儀が営まれ、親類及び各方面からの縁故者、また一般の会葬者ら約600人が参列。山田能裕探題大僧正を導師に延暦寺一山住職が出仕して執り行われた。

密葬当日の正午には、定刻前にも関わらず内仏殿が弔問客で一杯となり、天台事務庁にてモニターを通しての参列となった方々も

た。なお本葬は明年1月18日午後1時より、天台事務庁で営まれる。

森川座主猊下は「隅を照らす」精神を学生や一般の方々にもわかりやすくポストにポスト与えられた場所での力を尽くす」という言葉で説かれた。

11月29日に遷化された第百五十七世森川宏映天台座主猊下の密葬が26日、滋賀院門跡内仏殿においてしめやかに営まれた。葬儀には宗徒・檀信徒はもとより、御縁の深い各教宗派、各界から約7